

タウン誌はまちの“ストーリーテラー”

「マスメディアにはのらない、まちの小さな
宝石さがしを続けていきたいと思う」

世はまさに情報化時代。情報発信の呼び声高く、百花繚乱、玉石混交の感さえある。せわしなさも加速して、近所づきあいも疎くなっていた「みーな」だが、情報発信の舞台裏をご紹介したいと思い、大垣、敦賀、彦根で活躍中のタウン誌づくりの達人たちにお集まりいただき、座談会となった。

杉山 花粉症なもんですから途中でくしゃみもしますが、お許しください。
「西美濃わが街」は、昭和五十二年に創刊しました。創刊は、「つちやの柿羊羹」の社長が東京オリビックのころにヨーロッパに游学して、日本とはどういう国かと聞かれ、日本の生きた文化や歴史を全然知らないというカルチャーショックを受け、郷土大垣の文化と歴史を掘り起こして記録しようと、始まったんです。二十年くらい続いているんですけど、私が参加させてもらったのは、一八八年ぐらいですから、だいたい九十五〜六回特集をしてきましたが、毎月が試行錯誤の連続です。
杉原 彦根でやっておりますが、僕がやっているのはタブロイド判四ページです。今日はこちらと「DADA（タダ）」一五一号を、能登川から西浅井まで配達している途中です。最近いるんなことが、ほんとにわからなくなってきました。なにも、まちのことを考えたり、情報を発信しようと思えたりしてないのに、媒体を発行することが「まちづくり」として取り沙汰されるようになって……。まちづくりに貢献することを目的としているんではな

いですから。
見てもらってわかりますように、非常に個人的な話の内容になってますが、こういう媒体が続けられる土地柄であれば、けっこう捨てたもんやないなとも思っています。
西村 敦賀からきました。「tam（タム）」編集部です。そもそもは、僕が「創広」というデザインに会社に入社してしばらくしたときに、何か自分たちの方から情報発信したいなという気持ちで、会社の思いとタイミングよく合って、出すようになったのが始まりです。大学時代に若干、ミニコミみたいなものを作っていました。「タム」はだいたい十年ぐらいたちましたが、そもそもタウン誌を作るといことが決まっていたわけじゃないんです。先程タブロイドとおっしゃいましたが、うちも元々、四ページだでの新聞の折り込みの形態から、今のタウン誌の形に変わっていった。年四回というゆっくりにしたサイクルの中で四一号を今回出せまして、ちょうど十周年を迎えて、あらたな気持ちで十一年目を迎えたところで、みーな「長浜みーな」は七年前、ふるさと創生のお話からタウン誌を作りたいたいということになり、やる



41回目の特集テーマ

本誌の特集テーマはどうして決めるのか、というと、その時代（とき）の雰囲気の影響している。まちの雰囲気もだし、編集会議の雰囲気もだ。大勢の盛り上がりの中で練られることもある。三人の文殊が知恵を絞り出したこともある。これまでの特集テーマをふりかえり、ヨロヨロ足跡をたどってみよう。

■〇〇九号……よみがえった黒壁 アートロハート 湖北のメルヘン 「雪」のこと 曳山まつり 雨を楽しく 水のこと 手づくり万歳 湖北の味 湖北発ミッドナイト
悠久の歴史と文化が香るまちのタウン誌として生まれたころは、かなり抽象的なところから、広くいろいろな物事をすくい上げていた。テーマも、あふればかりのネタのなかから好き放題に選んでいた。

■二十〜二十九号……湖北に生きる顔 裸でつきあう 網を味わう 彦根・長浜・二都物語 音を楽しむ 渡り鳥とびわ湖 見せて候 春ぼんのり桜いろ 渡来栗西 ワクワク地蔵盆！
これまでのおこぼれをすくいながら決めてきたが、結構たくさんのお事象が発見できた。テーマが具体性を帯び、身近な存在だと思っていたものがほとんどはよくわかっていなかったことに気付かされた。地蔵盆特集では、西日本の広範囲にわたってアンケート調査を実施。地蔵盆分布図を作成できた。また、二十号からは表紙に地元的女性を登用。話題性があり、さわやかな魅力のある女性探しのなかでのネットワークの広がりもあった。

・き・ど・き いちについて 余呉湖へようこそ 風にさそれ中山道水めぐり お参り やす！観音の里へ なるほど・ザ・西浅井 商売繁盛、みーんな繁盛 やっぱり太閤さん 古代は近江町からはじまる
「もうそろそろネタ切れやろ……」と、不敵な笑いを見せる人によく出会ったのは、三十号あたりだったろうか。「いえいえ、なにをおっしゃる」という返事は、強気の発言と取られていたかもしれないが、次のテーマ何にするかという言葉が飛び交いはじめたのは、たしかにそのころだった。余呉湖を皮切りに、各地域にスポットを当てた。
そして四十号は、情報発信イベントのバツ！。地域情報について見直してみようと、少し視点を変えたのは、「四十にして惑わず」どころか、ちょっとした行き詰まりの結果であることを素直に認めよう。
この号が、読者のみなさんへの情報発信のためだけでなく、作り手の気持ちの刷新にもなり、より読みごたえのある本づくりにつながればと思う。



湖北近辺で手に入る Information Paper

地域情報をお届けする活字メディア

活字文化は、今やオールドメディアに分類される場合もあるが、情報が最終的に固定化、確認されるとき、活字は不可欠なものである。最先端技術を導入したコンピュータの世界でも、情報をプリントアウトすれば、電波→光→活字というプロセスを踏むことになる。

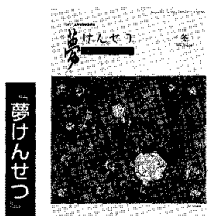
県内でも活字メディアの情報誌(紙)が数多く発行されているが、それらはおおむね次のように分類される。

- ①地域情報誌(紙)
 - 広域
 - コミュニティ
- ②PR誌(紙)
 - 企業PR
 - 行政PR

湖北近辺で入手した情報誌を紹介しよう。



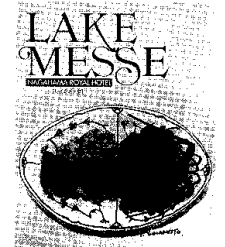
Wing
年2回。長浜信用金庫ウイングクラブ事務局発行。会員向け情報や県内の話題をオールカラーで紹介した、ハンディな冊子。



むけんせつ
月刊。勸滋賀県建設業協会発行。広く県内の情報を取り上げる。建設業界と市民を結ぶ冊子。300円。



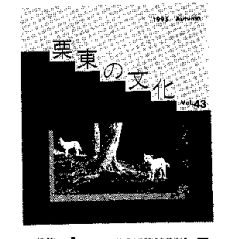
自然ふれあい通信
月刊。滋賀県自然保護協会事務局発行。県の自然保護施設が行う観察会などのお知らせや、樹木、動物、鳥などに関する情報を記載。無料。



LAKE MESSE (レイクメッセ)
季刊。長浜ロイヤルホテル発行。16ページ仕立ての前半を湖北のお祭り見所などの紹介にあてた観光客向け冊子。



(ピワズ通信)
季刊。水のみくみ館アクア琵琶発行。建設省琵琶湖工事事務所などが管理する同館のPR誌。びわ湖についての資料が満載。



栗東の文化
季刊。勸栗東町文化体育振興事業団発行。都市部と農村部を持つ町の今を、そこに住む人の生活文化を通してあらゆる角度から発信。400円。



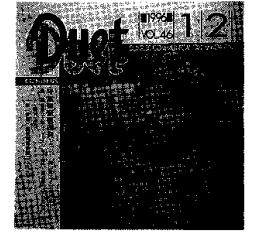
ハートLightしが
季刊。関西電力勸滋賀支店発行。県内の人の紹介や歴史、料理など身近な話題のなかに、電気に関する記事を織り混ぜながら構成。無料。



まほらAMITY
季刊。米原アミティ発行。米原町のまちづくり啓発冊子。町の歴史や行政課題などに鋭い批評眼をあてている。年会費3,650円。



湖
季刊。滋賀銀行発行。文学的情緒にあふれた小冊子。同行の支店窓口に置いてあり無料。



Duet (デュエット)
隔月刊。サンライズ印刷物発行。湖国の歴史や文化を発掘する印刷会社のコミュニケーション・マガジン。100円。

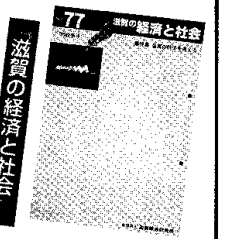


湖国と文化
季刊。勸滋賀県文化振興事業団発行。県内各地の歴史や文化、民俗など、学術的な誌面づくり。定価600円。

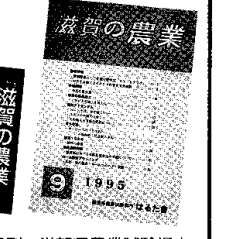


OH・Ming (オーミング)
季刊。ガチャコン倶楽部発行。近江鉄道の電車や車窓からの風景、沿線の事象を、少年っぽい目でとらえている。200円。

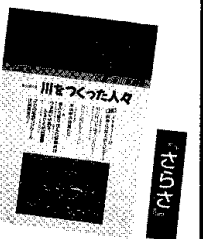
月刊。ダイニックアストロパーク天宮館星の会発行。多賀町にある同館は、すい星の発見などで名を高めている。星の話満載の冊子。会報誌。



滋賀の経済と社会
季刊。勸滋賀総合研究所発行。滋賀県の経済の動きや社会問題に、多角的な論陣を張っている。会員向け研究誌。



滋賀の農業
月刊。滋賀県農業試験場内はるた会発行。作物講座、農産加工、研究報告など専門的な分野からホーム園芸情報まで。購読会費1カ年2,000円。



川をくぐった人々
季刊。勸河川情報センター発行。近畿地方をエリアとする「かわの情報誌」。各地の河川公園やイベント情報、水に関する学習記事など。390円。



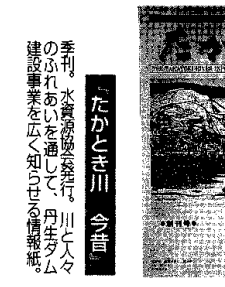
爽風
月刊。県立長浜文芸会館発行。同館での催し物案内紙。会員に配布。同館や県施設でも入手できる。無料。



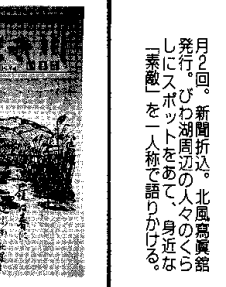
碧い湖
月刊。勸滋賀県下水道公社発行。下水道に関する情報誌。各地の下水道事情やイベント案内など。無料。



くすのぼろ
月刊。県生活環境部県民生活課発行。物価の動きや消費生活に関するデータが豊富。県事務所などで無料配布。



たかとき川 今昔
季刊。水質汚染対策委員会発行。川と人々のふれあいを通して、川と人々の建設事業を広く知らせる情報誌。



DADA (都会・田舎)ジャーナル
月2回。新聞折込。北風真真路しにスポットをあて、身近な「素顔」を一人称で語りかける。



THE しゅげむ(寿辰夢)
季刊。勸レイカディア振興財団発行。元氣なシルバーク世代の紹介や、高齢者のための情報を掲載。郵送高4回分定期購読できる。